

2014年4月 メディカルはこだて 第50号 掲載

ドクタークローズアップ 『ベトナムのハノイ医科大学から感謝状』 歯科口腔外科 辻 司 科長

DOCTOR
closeup

■ドクタークローズアップ■

ベトナムのハノイ医科大学から感謝状 インドネシアでの口唇口蓋裂の無償手術に毎年参加

辻 司氏 函館中央病院歯科口腔外科科長

函館中央病院（函館市本町、橋本友幸病院長）は、昨年11月に日本とベトナムの国交樹立40周年記念事業の一貫として行われた医学歯学交流ワークショップにおいて、ハノイ医科大学からこれまでのベトナムにおける医療援助活動に対し感謝状が贈られた。海外医療援助活動の取り組みについて、同病院歯科口腔外科科長の辻司医師に話を聞いた。

函館中央病院歯科口腔外科は口腔内のあらゆる疾患に対応。辻司医師は昭和63年城西歯科大

学歯学部を卒業後、札幌医科大学医学部口腔外科学講座に入局。平成4年から同病院歯科口腔外科に勤務してきた。専門分野は口腔外科全般と口腔粘膜疾患。病院創立とともに開設された歯科口腔外科は現在、辻医師のほか、がん治療の専門医、小児および障害児の歯科治療専門医など、歯科医師3人体制で診療を行っている。同病院歯科口腔外科は、全身麻酔の手術による難易度の高い治療に実績があるが、顎・口腔領域の良悪性腫瘍など口腔内のあらゆる疾患に対応し、院内他科や他院専

門医とのチーム医療、歯科領域における病診連携、地域連携を積極的に推し進めてきた。また、難しい親知らずの抜歯や抗血栓薬、ビスマスフォネート製剤投与と患者の抜歯など一般歯科診療所では対応が難しい抜歯や高血圧・糖尿病などリスクの高い有病者の治療、入院患者への口腔ケアの積極的な介入による入院期間の短縮に貢献するなど、急性期病棟の歯科口腔外科として高い評価を受けてきた。また、日本口腔外科学会及び日本口腔診断学会の認定研修施設にもなっている。

平成4年に発足したNPO法人の日本口唇口蓋裂協会は、先天的な口の病気の子ども達の健やかな成長を願って、医師や患者、医療関係者、企業、その他一般の人によって活動している日本最大の口唇口蓋裂に関する非営利のボランティア協会で、平成15年には国連認定法人（ロスター）の資格を得ている。「日本の31大学の医学部・歯学部を中心に延べ580人の医

師や歯科医師、看護師、歯科衛生士が東南アジアなど各国で援助活動を行ってきました」。辻医師は、この日本口唇口蓋裂協会からの要請で2008年からインドネシアにおける口唇口蓋裂の無償手術に毎年参加、今年で通算7回目となった。「現地のインドネシアでは全国から参加した歯科医や麻酔医、看護師などから構成される医療チームの一員となり、

2週間の日程で約40例の手術を行っていることができました」。海外では経済的な理由から手術を受けられない子供たちが多く、口唇口蓋裂は先天異常の中でも最も頻度の高い疾患の一つだ。口唇裂（こうしんれつ）とは、口唇くちびる）に披裂（ひれつ・割れさけること）が生じる病気で、口蓋

裂は口と鼻を隔ている上顎に亀裂が生じる病気である。「日本では乳幼児期に治療を行います。海外では経済的な理由や手術を行う専門の医師や施設の不足などから手術を受けられない子供たちがたくさんいます。手術を受けられることができれば、言葉の話し、食事も普通に摂ることができるのです」。

口唇口蓋裂への医療援助は無償手術のみならず、現地での治療技術の向上を図るために、現地医療者への医療技術教育支援、医療用器材の贈与や現地医療者への使用法の説明、口唇口蓋裂医療レベル向上のための講義・デモンストラーション手術、口唇口蓋裂疾患の理解を深めるための図書の贈呈などにも力を入れている。

患者や家族から感謝される援助活動は医療の原点であり、自分への大きな励みにもなると辻医師は話す。「今後も海外での口唇口蓋裂手術の支援活動を継続していきま



ハノイ医科大学からの感謝状を手にする辻司医師。

つじつかさ
昭和63年城西歯科大学歯学部卒業。
同年札幌医科大学医学部口腔外科学講座入局。
平成4年函館中央病院歯科口腔外科勤務、歯科口腔外科科長。
専門分野は口腔外科全般と口腔粘膜疾患。
医学博士。日本口腔外科学会専門医・指導医、日本口腔診断学会認定医・指導医・評議員、日本口唇口蓋裂協会・組織委員、がん治療暫定教育医（歯科口腔外科）。

